

平成30年度 学力向上指導改善プラン

三輪小学校長 植田 敦之

学校教育目標		人も自分も・学校もふるさと大切にできる子の育成								
推進主体		管理職と学校教育改革推進委員会、研究推進委員会を基に学力向上委員会を組織								
学力に関する前年度の課題・経年の課題										
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	4月		10～11月	2～3月				
			学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	中間評価 (今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価		
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	1.授業改善および学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本を徹底し、ユニバーサルデザイン化を進め「授業や学習のルール」の定着をはかる。 ○学習の「めあて」を明確にし、何を学ぶかの指針を児童に持たせる。 ○見通しあるいは学習の足跡を掲示することで「見える化」を図り、学習の振り返りをさせることで成果と課題に気づかせる。 ○学習のスタンダードを活用し、児童の学びが途切れることなく連続していくようにする。 ○前年度と同様に、授業研究(国語)を継続し、児童一人一人が分かる楽しさを味わえるような授業を工夫し、個別指導を行う。 ○研究推進の活動と併せて、指導力の育成を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本を徹底し、ユニバーサルデザイン化を進めていく。 ○学習のスタンダードを活用し、児童の学びが途切れることなく連続していくようにする。 ○学習のめあてと振り返りを書くことで、1時間の授業の学びを児童に意識させる。 ○資料を読み解く機会を多く持ち、資料を比較したり、自分の考えを構築したりする体験を授業の中で増やう。 ○「計算博士」の取り組みを継続することにより、基礎基本の力をつける。 ○全教員が年1回の研究授業を実施する。 ○教材研究の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読書タイム」の取り組みを引き続き継続する中で、計画的・意図的に読書の時間をとり、読書の習慣をさらに身につけさせる。 ○単元ごとの「つきたい力」を明確にし、事例を示すなどしながら、一人学習の充実を図り、自分の考えを持てるようにする。 ◆各教科で横断的に文章を書く機会を意図的、計画的に設定し、目的や意図を明確にして、書きたいことの中心が伝わるように詳しく書いたりまとめて書いたりすることができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書との連携により、図書と関連づけた授業や教科の学習で使う本の準備等、学校図書館の活用が広がった。 ○「読書タイム」や「ビブリオバトル」、読書ボランティアによる読み聞かせ等の取り組みにより、読書が好きな児童が育っている。 ○国語科を中心に、「つきたい言葉の力、聞き方や話し方など、「つきたい力」を明確にすることで話し合いの主体者として、質問の意図を捉えることができたり、司会者の役割を捉えたりできるようになってきた。 ◆目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことが苦手な部分があり、何をどのように取り上げて書けば効果的であるかを系統的に指導する。 	A		
			定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	算数・数学	2.家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○八景中学校区連携で作成した「家庭学習の手引き」の活用と実践。 ○「家庭学習の手引き」を学期ごとに配布し、家庭学習の仕方や時間を示すことで、児童・保護者に家庭学習をするように積極的に啓発し、「家庭学習の手引き」を教室にも大きく掲示するなどし、保護者の協力を得ながら児童が自ら宿題や読書を毎日一定時間取り組めるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年×10分を基準として、宿題以外の学習の時間を意識して家庭学習に取り組めるよう啓発する。 ○宿題以外の「自主学習(自学)」を進んでしようとする意欲を育て、習慣化に努める。 ○自主学習の仕方を学年ごとの発達段階に合わせて指導していく。 ○自学ノートの導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習として「計算博士」の取り組みを継続する中で、基礎基本の力をさらに定着させる。 ○ひょうごがんばりタイムを効果的に活用し、担任や外部ボランティアと連携して基礎基本の定着を図る。 ◆乗法、除法、加法、減法の順序など「計算のきまり」について、具体的な事例を通して理解できるようにしていく。 ○学習のスタンダードの定着を図る。 ◆日常生活の問題解決のために、算数の知識を効果的に使い、児童自らが、どのように考えてそうしたかを説明できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「計算博士」の取り組みにより、徐々に基礎基本の力が定着しつつある。 ○学習のめあてと振り返りを書くことで、1時間の授業の学びを児童に意識させることができた。 ○全校で実施している「学習相談」や、今年度から実施した「がんばりタイム」(3～6年)の活用が、児童の苦手意識の克服につながっている。 ◆課題解決への見通しを持ち、筋道立てて説明する学習に取り組んでいるが、これからも思考力や表現力を高める取り組みを継続していく必要がある。 	A
					3.粘り強く学習に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○さらなる読書習慣の定着。 ○縄跳びの等の「継続的な取り組み・練習」の習慣化。 ○目標を立てて取り組むことの大切さを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の読書タイムの継続とともに「読書通帳」を活用した読書の習慣を、さらに定着させる。 ○100冊達成の表彰をすることで、児童の読書への関心と目標を立てて取り組む姿勢を育てていく。 ○学校司書や学校ボランティアによる読書活動の取り組みを推進していく。 ○学年ごとの「縄跳びカード」を活用し、目標達成の表彰を行うなどして、継続した練習を継続しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の読書タイムの継続とともに「読書通帳」を活用した読書の習慣を、さらに定着させる。 ○100冊達成の表彰をすることで、児童の読書への関心と目標を立てて取り組む姿勢を育てていく。 ○学校司書や学校ボランティアによる読書活動の取り組みを推進していくと共に、国語科などの教科に関わる本の活用を進める。 ○学年ごとの「縄跳びカード」を活用し、目標達成の表彰を行うと共に、体育の学習の準備運動に縄跳びを取り入れるなどして、継続した練習を継続しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学団や全体での授業研を通して、「つきたい言葉の力」を明確にし、言語活動の充実を図ることができた。 ○教室の学習環境にユニバーサルデザイン化が浸透しつつある。 ◆「学びのスタンダード」を定着させることで、児童の学びへの意欲付けにつながり、支援の工夫も徐々に進めてきた。今後も系統立てた計画的な指導を重ねていく。 	B
学力向上に慣れる等の学習習慣・生活習慣	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	生活習慣	3.学習環境の整備と学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しとともに学習の足跡がわかる教室掲示。 ○間違いを恐れずに、自分の考えを発表しようとする態度と、それを受け入れられる学級の雰囲気作り。(学級経営) ○互いに教え合ったり、協力して考えを深め広げたりできる教室雰囲気作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインを導入し、学習の見通しとともに学習の足跡がわかる教室掲示を行う。 ○学級作りを通してクラスメイト同士の相互理解と自尊感情を育てていく中で、学習意欲を育てる。 ○分かりやすい「学習のルール」等の教室掲示と「聞く態度」の徹底。 ○がんばれたことを褒めることで「自信」を持たせ、自分の考えが言えるクラス作りを努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインをさらに進め、1時間の授業の中でも学習の過程と見通しがもてるような工夫を行う。 また、学習の足跡がわかる教室掲示を行う。 ○学級作りを通してクラスメイト同士の相互理解と自尊感情を育てていく中で、学習意欲を育てる。 ○分かりやすい「学習のルール」等の教室掲示と「聞く態度」の徹底。 ○がんばれたことを褒めることで「自信」を持たせ、自分の考えが言えるクラス作りを努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆キャリア教育の年間指導計画をもとに児童が自分らしい生き方を実現する力を育てていく。 ○6年生の「ふるさと三輪」の学習をはじめとして、各学年で地域に学ぶ学習を行っている。 ◆6年生を中心に国語科や総合的な学習、道徳においてプロフェッショナルたちの生き方にふれる学習を充実していく。 ◆校区内の学習教材や人材と結びつける地域学習を充実させ、カリキュラムマネジメントを推進させる。 	B		
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況		4.地域との関わりとキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の年間指導計画をもとに児童が自分らしい生き方を実現する力を育てていく。 ○6年生の「ふるさと三輪」の学習を始めとして、各学年で地域に学ぶようとする態度を育てる。 ○将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の年間指導計画を作成する。 ○6年生を中心に「ふるさと三輪」の学習を充実させる。 ○6年生を中心に国語科や総合学習、道徳においてプロフェッショナルたちの生き方にふれさせる。 ○校区内の学習教材や人材と結びつける地域学習を充実させ、カリキュラムマネジメントを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆キャリア教育の年間指導計画をもとに児童が自分らしい生き方を実現する力を育てていく。 ○6年生の「ふるさと三輪」の学習を始めとして、各学年で地域に学ぶ学習を行っている。 ◆6年生を中心に国語科や総合学習、道徳においてプロフェッショナルたちの生き方にふれる学習を充実していく。 ◆校区内の学習教材や人材と結びつける地域学習を充実させ、カリキュラムマネジメントを推進させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習の手引き」を学期ごとに配布し啓発することで、家庭学習の仕方や時間が児童・保護者に定着しつつあり、「宿題忘れ」は少なくなっている。 ◆さらに定着を図るために「家庭学習の手引き」を教室にも大きく掲示するなどし、保護者の協力を得ながら児童が自ら宿題や読書を毎日一定時間取り組めるようにしていく。 ○図書ボランティアによる読み聞かせ、読書通帳の活用により、読書に対する児童の意識が向上してきた。 ○「ユニバーサルデザイン」の認識が全職員に共有できた。 ◆児童の実態から、「つきたい力」と「これからつきたい力」を明らかにし、評価の観点を明らかにし、「めあてとふりかえりのある授業」「ノートのとり方」等学習スタンダードを共有していく。 	B		
校内研究・研修	校内研究の状況	校内研修の状況	5.保幼小中高の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活における基本的なルールの作成と共通化(生徒指導部) ○「家庭学習の手引き」の活用。 ○目標に向かってチャレンジする意欲の育成。(縄跳びと読書) ○ふるさと三輪を愛する学習の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。 ○互いの授業参観の機会を設定し、教師間の交流を図る。 ○道徳や6年生の卒業前に、卒業後の学校生活等について、中学生の先輩からのガイダンスを受ける機会を持つ。 ○出前授業(理科・英語)や社会体育での交流を通して、学習に対する児童の興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○八景中学校区連携により「家庭学習の手引き」の改訂し「学びのスタンダード」を作成したので、具体的に実施していくと共に、学びのスタンダードの改善点などを出し合い、さらに効果的な方法を探っていく。 ○より確かな連携に向けて、各分野ごとの連絡会、交流事業計画等、計画的に実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○がんばりタイムの取り組み等、きめ細かな個別指導により児童一人一人に自信をつけさせることができた。 ◆英語科の導入や授業時数の増加に向けて、朝学習や学習相談の持ち方を工夫する必要がある。 ◆八景中学校区連携により作成した「家庭学習の手引き」や「学びのスタンダード」の中で、『自主学習』『予習』の習慣を定着させていく必要がある。 ◆より確かな連携に向けて、各分野ごとの連絡会、交流事業計画等、計画的に実施していく。 	B		
	家庭・地域等の状況								<ul style="list-style-type: none"> ◆計画的に家庭学習を進めることについて家庭の協力を得ることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆八景中学校区(幼・小・中)で目指す子ども像を定め、共通した目標を設定し、指導の充実を図っていく。また、保護者の協力のもとで「家庭学習の手引き」を活用していく。
家庭・連携・携校種間	小・中における教科連携等の状況									